

令和3年度 学校評価 パワーアッププラン

学校名	丹波市立山南中学校
-----	-----------

○目標・方針

中期的な学校運営の目標・方針	本年度の重点目標
<p>【学校教育目標】</p> <p>ふるさと山南を愛し、社会の変化に柔軟に対応できる生徒の育成</p> <p>□自学自習・自走できる生徒の育成</p> <p>□思いやりのある心豊かな生徒の育成</p> <p>□未来にたくましく生きる生徒の育成</p>	<p>○人権尊重の精神を基盤にした学校教育の充実</p> <p>(自己肯定感を育み、主体性に満ちた活力ある学校づくり)</p> <p>○「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善</p> <p>○挨拶、清掃、時刻を守る、物を大切にす等基本的な生活習慣や規則正しい生活リズムの徹底</p> <p>○「地域とともにある学校」づくりを推進し、統合中学校の将来像を明確にする</p>

○自己評価

領域	評価の観点	評価項目	達成状況	学校の取り組み状況と改善の方策
保護者・地域住民との連携		信頼される学校 情報発信や情報収集に努め、家庭・地域と連携し地域とともにある学校づくりを推進する。	A	「学校教育の方向や生徒の様子分かる」と回答した保護者が87.5%である。ただ、コロナ禍の影響で学校に来てもらう機会が少なかったのが残念である。また、統合中学校設立に向けて体制を作り、準備が加速した。「トライやる」の事業所体験が実施できたことや2年生の「アントレ秋祭り」の実施など地域と連動した活動もできた。今後も地域とともにある学校づくりをより一層推進していきたい。
		基本的な生活習慣の確立 挨拶、清掃、時刻を守る、物を大切にす、また早寝・早起き等、基本的な生活習慣の徹底を図る。	B	あいさつの状態や清掃の取り組みは関してアンケートでは9割以上の生徒が肯定的に回答しているが、学年によっては若干の低下が見られる。あいさつはコミュニケーションの基礎ともなるもので、日ごろから全教職員で取り組み、生徒会とも協同しさらに向上させていきたい。また、統合を控え、生徒たちの学校や物に対する意識の高揚にも取り組んでいく。
		いじめ防止、不登校ゼロ 生徒の主体的な活動を支援するとともに、居場所づくりを推進する。	B	コロナの影響もあるのか全国的に不登校傾向の生徒数が増加しており本校もその傾向にある。ただ、そういった生徒に対してICTを活用した支援が実施できた。また、いじめをはじめ生徒間のトラブルにSNS等が関係してくる事案が増えてきた。情報モラル教育の充実を図りたい。
教育課程	学習方法の工夫改善	基礎基本の定着と家庭学習の習慣化 個に応じたきめ細かな指導の徹底と家庭学習の習慣化を図る	A	伝統的に実施している朝の「やまなみチャレンジ」や「毎日漢字(毎漢)」等日々の宿題や自主学習により、基礎学力の定着が見られ、学力調査でも良好な結果であった。家庭学習の調査では1~2時間程度の生徒の割合が最も多く約5割を占めているが、主体的な取り組みには課題が見られる。ICTの活用など課題の出し方や家庭学習の内容の向上に向けた取組が課題である。
		指導方法の工夫改善 授業のユニバーサルデザイン化研修を進め、生徒が主体的・意欲的に取り組む授業づくりに努める	A	授業の内容を理解できているかの問いに対して94%の生徒が肯定的に答えておりユニバーサルデザイン(以下UDと表記)の視点に立った「わかる授業」の推進が進んでいると考える。ただ、深い学びの推進ではコロナの影響で学習活動にも制約があり、今後さらなる改善が必要だと考える。統合も踏まえ研修の体制を整理し、推進していく。
課題教育	人権教育	自己肯定感を育む指導 生徒理解に努め、個々の頑張りや良さを認め・褒め・伸ばす教育の充実を図る	B	地域での活動に制限があり、多くの人と触れ合う機会の減少から自己肯定感の低下を心配していたが、アンケートでは例年とほぼ同じ78%の生徒が肯定的な回答を示していた。UDの視点に立った個々に寄り添う取り組みの成果だと考える。また、人権学習会には非常に多くの参加者があり、このよき伝統を統合中学校にも継承させていきたい。

○学校関係者評価

自己評価の各観点に対する評価
<ul style="list-style-type: none"> ・コロナで直接生徒と関わりを持つことで学校の様子を知る機会が減ってしまったことが残念である。そんな中でも地域と連携した活動ができ、様々な年齢層の人と関わることでよかった。 ・今年の「トライやる」は地元企業について知る良い機会であり、親もその企業について学ぶことで、地域を知る良い機会でした。これをきっかけにして地元への就職や故郷に対する意識の向上につながればと思います。今後さらに地域と連携した活動ができる環境になることを願います。
<ul style="list-style-type: none"> ・全教職員が率先して下校指導を行い、声掛けをしている様子が見える。積極的に挨拶することは大人になっても大切である。今後も継続して指導してほしい。 ・家庭内での基本的な生活習慣は各家庭の事情により差異が生じ、学校の指導が及びにくいと考える。家庭への啓発やPTAとの連携を強化してもらいたい。 ・コロナの感染防止対策は引き続き、実行してもらいたい。
<ul style="list-style-type: none"> ・ネットやSNSによる誹謗中傷や差別は社会問題であり、子どもたちもその渦中にある。情報モラル教育の充実を期待する。 ・アンケートでは「悩みを相談できる人がいない」と回答している生徒がいる。少数ではあるが個々にケアし、しっかりと見守ってほしい。 ・生徒から学校へ発信するSNS等の活用があってもいいのでは。
<ul style="list-style-type: none"> ・タブレット型パソコンの有効活用は大きな可能性を秘めていると考える。さらなる充実に向け研修を積んでもらいたい。 ・各種の検査結果より基礎は定着していると考えている。これは日ごろの取り組みの成果だと思う。ただ、家庭学習の時間が伸びないのは「やまチャレ」だけの家庭学習になっていることも一因としてあるのではないだろうか。宿題の内容等で改善を図れるのではないだろうか。 ・基礎学力定着の取組は統合中学校にも継承してもらいたい。
<ul style="list-style-type: none"> ・「わかる授業」の充実や「対話的な授業」の創造がクラスでの居場所づくりにもつながると考える。現在は制約もあると思うが、今後も研修を重ねてもらいたい。 ・個々の生徒の状況を全体で検証し、支援に活かす取り組みは非常に効果的だと考える。引き続き、授業のユニバーサルデザイン化を進めてもらいたい。 ・コロナで自宅待機している生徒にICTを活用して学習支援ができたのはよかった。
<ul style="list-style-type: none"> ・自主的な人権学習の会である「さくら学級」への参加者が多いのは素晴らしいことである。人権に関心があり、前向きに取り組んでいる証で、これからも丁寧に指導して、統合時にも引き継いでもらいたい。 ・生徒に自信をつけさせる指導に取り組んでもらいたい。そして、評価し、伸ばすという視点での指導に重きを置いてもらいたい。 ・「自他を共に大切にす」この言葉で人権に対するイメージを明確にした中学生もいる。個々を伸ばす教育に期待する。

※領域(3領域) 学校運営、教育課程、課題教育

※評価の観点例(網羅するのではなく、各学校で観点を絞る)

領域	観点例
学校運営	学校経営、組織運営、生徒指導、進路指導、教職員の育成、危機管理、安全管理、保護者・地域住民との連携、施設設備 等
教育課程	学習指導、道徳教育、総合的な学習の時間、指導方法の工夫改善 等
課題教育	特別支援教育、人権教育、福祉教育、情報教育、食育、防災教育、環境教育 等

※達成状況 A: 優れている B: おおむね良好 C: やや改善 D: 要改善

自己評価の実施方法についての評価

・アンケートをもとに経年比較も交えながら評価しているのはいいことである。たださらに結果を活かすためにも項目ごとに検証するだけでなく、クロス集計をして相互のつながりも検討し、今後の指導に役立たせてほしい。

・アンケートで全体的な傾向を把握することはできると思うが、同時に個々の生徒たちとも向き合っアンケートでは読み取れない本音の部分も見守ってほしい。

・情報の共有はすごく大切で生徒も学校も守ることにつながると考える。よりスムーズに情報の共有が図れるように、意識の高揚を図るとともに、組織の体制を見直してほしい。

学校関係者評価のまとめ

・統合中学校開校に向けて、本校の良い所を引き継ぐとともに新しい時代の新しい学校の創造となるように全職員で意識を共有して組織的に取り組んでもらいたい。また、思いの詰まった中学校への感謝の気持ちも育ててもらえたらと考える。

・「自学自習・自走できる」生徒の育成に向け、粘り強い指導を続けるとともに、大人が先走りせず、子どもたちが自ら考える機会の増大を図ってもらいたい。

・ネットが子どもたちの生活に大きな影響を与える機会が増大している。家庭や地域との連携をさらに深めて、取り組んでもらいたい。

学校関係者評価を受けての次年度の改善の方向性について

子どもたちの学びに向かう力の土台としての自己肯定感の育成が重要である。そのためには、良さや頑張りを見つけ、認め、褒める教育を目標に、様々な教育活動に取り組んでいきたい。

「授業のユニバーサルデザイン化」の研修の指定を終えてから数年が経過した。終了後も本校の学力向上の大きな柱として取り組んでおり、成果は出ていると考える。ただ、次年度は統合前、現体制での最終年度となることから、今までの集大成のつもりで再度、取り組みを見つめ直し、統合中学校へ引き継いでいきたいと考える。また、様々な面で統合を見据えての年となることから、2校の連携を強化し、生徒レベルでの交流も活性化させていきたい。

令和4年3月15日 学校名 丹波市立山南中学校
校長名 荻野圭裕